

# 小論文

(100点 60分)

## 【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
2. 問題冊子は1冊1ページ、解答冊子は1冊1ページです。
3. 試験開始後、問題冊子や解答冊子に乱丁・落丁がある場合は、直ちに申し出てください。
4. 受験番号と氏名の記入欄は、解答冊子の表紙と各ページにあります。
5. マス目のある解答欄への記述に関しては、記号数字なども1文字分として当ててください。

例) 

1	.	0	%
---	---	---	---

6. 試験終了後、解答冊子を回収するので、指示があるまで退席しないでください。
7. 問題冊子は持ち帰ってください。

## 問題

次の文章を読み、本文の趣旨とあなたの経験をふまえ、大学での学びについて600字以内で述べなさい。

米国の新聞記者マルコム・グラッドウェル（2009）は、ひとつの仕事で第一人者になるためには1万時間もの練習が必要だという「1万時間の法則」を、心理学者のアンダース・エリクソンの調査結果等を参照し、著書「天才！ 成功する人々の法則」の中で指摘した。1万時間という科学的信頼性はさておき、卓越した技術の修得には、少なくとも計画的練習を積み重ねる必要があることを否定する者はいないだろうから、マジックワードである。

一方、一流になる・ならないを分ける大きな違いは、時間ではなく、指導の質と量であったという調査結果もある。要するにこれらの研究結果は、一流になる者はその遺伝子のみが決定要因ではなく、人間関係などその人を取り巻く環境の影響も受けることに一石を投じている。

1980年代には、企業戦士という言葉が戦士自身が自虐的に発していた。この頃の企業人は長時間労働もいとわず、仕事へのやりがいや生きがいをもち、高度経済成長を支えた。自虐ネタではなく「企業戦士」は誇りの象徴だった。

今は法規制やDX化により長時間労働が減少している。良いことであるが、仕事は極端に減少していないので、Off-JT<sup>1)</sup>やOJT<sup>2)</sup>など学びの機会が減っているという報告もある。

社会人の勉強時間が1日平均13分（総務省、2022）という数字は衝撃的で、自律的に自己研鑽をしない社会人の増加を示しており、20代ほどその傾向が強いことにより危機感が募る。

「子供・若者白書」（令和3年）によると「若年無業者」（家事・通学せず、かつ就職をしていない15～39歳）が87万人で増加傾向にある。働きたくないわけではなく、彼らが知識・能力に自信がないなど自身への信頼を失っている。

少子高齢社会への対峙には、生活のため＝報酬を得るという外発的動機づけだけでなく、内発的動機づけも重視し、仕事のやりがいや達成感を得られるよう工夫し、モチベーションにつなげることが必要であるように思う。そのためには、能力を発揮する機会に恵まれたり、他者から敬意を示されたり、他者を尊重したり、相手の思いに伴走し共感できたりするなど、自らができることが増えていくという成長実感につなぎ、精神的な成熟を促すことも必要である。

<sup>1)</sup> Off-JT：Off-the-Job Trainingの略称 <sup>2)</sup> OJT：On-the-Job Trainingの略称

（出典 『週刊 保健衛生ニュース』第2305号（令和7年4月28日）「ヘルス・アイ」p.64.一部改変）